

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果（概要）	教育 0-1
1. 教育学部	教育 1-1
2. 教育学研究科	教育 2-1
3. 高度教職実践専攻	教育 3-1

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果（概要）

学部・研究科等	教育活動の状況	教育成果の状況	質の向上度
教育学部	期待される水準にある	期待される水準にある	改善、向上している
教育学研究科	期待される水準にある	期待される水準にある	質を維持している
高度教職実践専攻	期待される水準にある	期待される水準にある	質を維持している

教育学部

I	教育の水準	教育 1-2
II	質の向上度	教育 1-4

I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目 I 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 計画的に自己点検・評価を行い、次年度に自己点検・評価の結果についての外部評価を実施することにより教育の質保証に努めている。
- 愛知教育大学、東京学芸大学及び大阪教育大学との連携事業である HATO プロジェクトでは、小学校英語教育の指導力向上プロジェクト、へき地・小規模校プロジェクト等において中核的役割を担っている。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 北海道の教育課題であるへき地・小規模校に対応した教員を養成するため、「へき地校体験実習」を開設しており、平成27年度は126名が受講している。
- グローバル人材を養成するために、TOEFL/TOEIC 対策講座の実施や『海外留学ハンドブック』の発行により学生の海外派遣を促進しており、海外派遣学生数は平成21年度の27名から平成27年度の75名となっている。また、海外からの留学生の受入数は、平成21年度の87名から平成27年度の113名となっている。

以上の状況等及び教育学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目 II 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）における進級・卒業等の状況について、留年率は2.5%から3.2%、退学率は1.0%から1.4%、休学率は1.1%から1.3%、標準修業年限内の卒業率は91.8%から95.5%の間を推移している。
- 平成27年度の卒業生1,225名について、教員免許状取得件数は延べ2,472件となっている。

- 平成 26 年度に実施した学生アンケートの結果では、肯定的回答の割合は、授業への満足度は 68%、教養教育への満足度は 83%、専門教育への満足度は 91% となっている。

観点 2-2 「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第 2 期中期目標期間における教員養成課程の卒業生の就職状況について、就職率は 91.8%から 96.7%の間を推移しており、教員志望者のうち教員として就職した者の割合は 86.7%から 99.3%の間を推移している。
- 第 2 期中期目標期間における大学院への進学率は 8.1%から 10.3%の間を推移している。

以上の状況等及び教育学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 改善、向上している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 「国際化に向けてのアクションプラン」を策定し、日本語・日本文化研修プログラムや短期派遣研修プログラムを実施するなど、留学生の受入及び派遣を促進した結果、平成 21 年度と平成 27 年度を比較すると、派遣留学生数は 27 名から 75 名、受入留学生数は 87 名から 113 名となっている。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 第 2 期中期目標期間における教員養成課程の教員志望者のうち教員として就職した者の割合は平均 94.2%となっており、平成 16 年度から平成 20 年度の平均 88.7%を上回っている。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。

教育学研究科

I	教育の水準	教育 2-2
II	質の向上度	教育 2-4

I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 学校臨床心理専攻では、学生のメンタリングを担当する教育臨床実践メンターの配置や教員が現職教員大学院生の勤務校を訪問して研究指導を行う取組を行っている。
- 平成23年度から秋季入学者選抜試験において、国際交流協定大学である中国の瀋陽師範大学、哈爾濱師範大学、山東師範大学、四川大学及び天津外国語大学の学生を対象とした外国人留学生特別選抜を瀋陽師範大学及び天津外国語大学において実施しており、平成23年度から平成27年度における志願者数は合計47名、入学者数は合計26名となっている。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 学生の実践的能力の育成のために、学生が附属学校において非常勤講師として授業や指導補助を行う取組を実施している。
- ロンドン大学アジア・アフリカ学院（英国）等の交流協定大学との交換留学制度により、第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）に延べ12名の学生を派遣している。
- 入学時に教員免許状を有していない大学院生向けの教員免許状取得特別プログラムや社会人学生等を対象とした長期履修制度を設けている。

以上の状況等及び教育学研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第2期中期目標期間における修士課程修了生の修得単位数は、修了要件の30単位に対して平均37.5単位となっている。
- 平成26年度に実施した修士課程修了生の修了時アンケートの結果では、「教

育現場の課題に応える実践的な指導力を養成する」という教育目標の達成度について、肯定的回答の割合は 88.2%となっている。

観点 2-2 「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第 2 期中期目標期間における就職状況について、修士課程修了生のうち就職者の割合は 47.2%から 71.8%、教員志望者のうち教員として就職した者の割合は 76.6%から 97.6%の間を推移している。

以上の状況等及び教育学研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 23 年度から秋期入学者選抜試験において、国際交流協定大学である中国の瀋陽師範大学、哈爾濱師範大学、山東師範大学、四川大学及び天津外国語大学の学生を対象とした外国人留学生特別選抜を瀋陽師範大学及び天津外国語大学において実施しており、平成 23 年度から平成 27 年度に合計 26 名の学生が入学している。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 第 2 期中期目標期間における就職状況について、教員志望者のうち教員として就職した者の割合は平均して 89.9%、民間企業・公務員等への就職志望者の就職率は平均して 83.2%となっている。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。

高度教職実践専攻

I	教育の水準	教育 3-2
II	質の向上度	教育 3-4

I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 遠隔地キャンパスによる広域性への対応として、教職大学院を展開する札幌、旭川、釧路の3キャンパスを双方向遠隔授業システムで結ぶとともに、すべての授業を主担当1名、副担当2名で行う体制を整備している。
- 教育委員会等の要請等を踏まえ、平成27年度に教職大学院におけるコースを学部卒大学院生対象の教職基礎力高度化コース、現職教員対象の教職実践力高度化コース（経験年数おおむね5年以上）及び学校改善力高度化コース（経験年数おおむね10年以上）の3コースに再編している。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 1年次に6領域12科目からなる共通科目22単位、2年次に3分野26科目からなる分野別選択科目12単位以上に加えて、1年次と2年次にそれぞれ学校における実習を課すことにより、理論と実践の融合を図るとともに、2年次の「共通演習」を通して、修士論文に代わる学修の成果を「マイオリジナルブック（MOB）」としてまとめる教育課程を編成している。
- 1年間を4学期制とし、共通科目・分野別選択科目は現職教員が学びやすいように原則として、夜間1科目と土曜日午後2科目の開講としている。

以上の状況等及び高度教職実践専攻の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）における修了生の平均修得単位数は、卒業要件の46単位に対して51.3単位となっている。
- 平成27年度の修了生48名の専修免許状の取得件数は延べ66件となっている。

観点 2-2 「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第 2 期中期目標期間に修了した学部卒大学院生 122 名のうち、教員志望者の 116 名全員が教員として就職している。

以上の状況等及び高度教職実践専攻の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 現職教員大学院生や北海道教育委員会からの要請を踏まえ、学部卒大学院生及び現職教員の職務経験に即した課題に対応するため、平成 27 年度に教職大学院におけるコースを学部卒大学院生対象の教職基礎力高度化コース、現職教員対象の教職実践力高度化コース（経験年数おおむね 5 年以上）及び学校改善力高度化コース（経験年数おおむね 10 年以上）の 3 コースに再編している。
- 現職教員大学院生が修学しやすいように夜間や土曜日の午後にも授業を開講している。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 第 2 期中期目標期間に修了した学部卒大学院生の教員志望者 116 名全員が教員として就職している。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。